

ミルハス 開館



開館を祝って披露された「大いなる秋田」の演奏（ミルハス大ホール）

文化芸術の拠点に

式典に400人

「大いなる秋田」演奏も

あきた芸術劇場ミルハスの開館記念式典が5日開かれ、佐竹敬久県知事と穂積志秋田市長、国会議員、県・市議会議員、文化団体関係者ら約400人が出席し、開館を祝った。

記念式典は中ホールで行われ、佐竹知事が「ミルハスが本県文化の殿堂の名にふさわしく、将来にわたり、県民の創造活動の場として、また人が集い交流する場として、多くの人たちに愛され、親しまれる施設となることを願います」、穂積市長が「ミルハスは県民会館と秋田市文化会館の機能を継承する新たな文化芸術の創造拠点として、県民、市民の皆さまにこれまで以上に親しんでもらえる最高の舞台を目指したものです。末永く愛される施設となることを祈念します」とあいさつ。建設工事の共同事業体などに感謝状が贈られた。由利高校民謡部が「秋田大黒舞」と「秋田音頭」を披露。佐竹知事らがくす玉を開披して、ホール内は大きな拍手に包まれた。

引き続き大ホールに会場を移し、記念演奏として「大いなる秋田」が披露された。秋田市出身の佐々木新平さんが指揮、秋田吹奏楽団と県合唱連盟のメンバー約210人が演奏、合唱した。式典参加者に加え、一般応募で当選した県民約400人も鑑賞。高い音響性能と舞台設備を併せ持つ大ホールでの演奏を満喫した。

ミルハスは6日から、大、中、小ホールを除いた練習室、研修室、創作室の一般利用がスタートする。グランドオープンとは9月23日、新日本フィルハーモニー交響楽団とピアニストの小山実稚恵さんが共演する。